

海上自衛隊イージス艦と漁船衝突事故の真相究明と再発防止を求める意見書

マグロ延縄漁船「清徳丸」と海上自衛隊イージス艦の衝突事故は国民に大きな衝撃を与えた。30名もの尊い人命を奪った潜水艦「なだしお」事件の教訓がまったく生かされず、ふたたび痛ましい事故が起きたためである。いまだに漁船に乗っていた親子は行方がわからない。

しかも、その後防衛省の説明は二転三転し、「あたご」が漁船を発見したのは「2分前」だといっていたのを「12分前」に訂正した。12分あれば、海上衝突予防法に従って右回り衝突を避けることもできたはずで、2月20日まで、その事実を隠そうとしたことは問題である。

防衛省、自衛隊が事故直後、「あたご」幹部から時間をかけて聞き取り調査を行い、その後、石破防衛相が大臣室で航海長から事情を聞いたにもかかわらず、防衛省からのまとまった説明は行われていない。「防衛省改革会議」で議論するというだけでは、原因究明が曖昧になる可能性がある。

「あたご」の艦長が「あの海域が漁船の多い状況だったことを理解していなかった」と述べ、漁船発見後も回避行動を取らず、自動操舵していたことは、漁船の安全など眼中にないという姿勢の現れである。その大本には、軍事優先のおごりがあるためではないか。

多くの漁船が行き交う日本近海において、自衛隊艦船が引き起こした衝突事故の真相と責任を隠したまま、幕引きすれば再び同じ悲劇をくり返すことになる。

よって町田市議会は、政府に対し、再びこのような事故をくり返さないためにも行方不明者の捜索や捜索に携わった漁協の保障を全力で行うとともに、徹底した真相究明と責任を明らかにし、今後の再発防止を強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。